

子供の意見を反映・社会参画を実現するための受け皿として コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度、以下CS）活用が有効である

令和7年7月28日
教育課程企画特別部会
参考資料2-3

新潟県 魚沼市立小出中学校

生徒数：240名 学級数：10学級

令和4年度より、CS委員からの「生徒の想いを聴き取り、CSの活動に反映させたい」との声を受け、地域住民と全校生徒が魚沼地域の未来について対話し合う場として、「地域を語る会」を実施している。

令和5年度には、生徒たちの提案から実現した商店街火災に対する募金活動が、令和6年度には地域行事（小出まつり）との協働企画として展開され、いずれもCSの支援により実行に至った。令和7年度には、生徒のアイデアの創出から実践までのプロセス全体を第3学年の教育課程に位置づけ、地域活動と一体的に推進している。

STEP1 地域を語る会

地域の魅力と課題を明確にしたうえで、自分たちにできそうなことを見つけ出すことをねらいに、全校生徒と地域住民がともに語り合った。「魚沼（小出）の魅力と課題・問題点」「地域活性化のために、自分は、自分たちは何をしたいか」について、想いを共有し、意見を深めた。

子供たちからは「地域の方と交流しながら、将来の魚沼のことを考えられてよかったです。こういう地域の人と交流できる機会をもっと増やしてほしいです」「地域のことについてより詳しく考えられたし、頭の中にしまっていた地域をより活性化させるための案がたくさん出てきました。これから、ボランティア活動や、地域の伝統を継承していき子どもが参加できる活動をしていきたいです」との声が上がった。



▲「地域を語る会」対話の様子



※令和7年度の様子

STEP2 子供たちの考えたプロジェクト実施

「地域を語る会」で生徒から提案されたアイデアをもとに、令和6年度の地域行事「小出まつり」において、生徒会とCS委員が中心となり、プロジェクトを企画・運営した。

小出CSチームとして生徒会とCSが呼びかけを行い、約100名の児童生徒・地域住民が民踊流しに参加したほか、花火大会後の清掃活動や、商店街でのブース出店・オリジナルグッズ販売と寄付活動など、地域と協働した取り組みが実現した。プロジェクトの実施にあたっては、地域学校協働本部やCS委員等が、生徒の地域活動をコーディネートすることで、教職員の負担軽減にも配慮した運営がなされている。

令和7年度は、こうした活動の実践を第3学年の教育課程に位置付け、生徒が主体的に地域参画に取り組む予定である。



▲商店街でのブース出店・オリジナルグッズ販売と寄付活動

※令和6年度の様子

CSポートフォリオでの数値変化

全校生徒対象、令和4年～令和6年で実施した「CSポートフォリオ」結果

●地域における大人との関わり

10.5%上昇

●自己肯定感

5.0%上昇

●地域住民（主に、運営協議会委員）との対話が契機となり、子どもが主体的に社会参画する活動へと結びついた結果、自己肯定感の数値（CSポートフォリオ）が年々上昇している。

●意見表明で終わらず、事業や計画に反映させたり、子ども主体の次なる活動や実現に向けたサポートをしたりすることが地域側（CS、自治体等）に求められる。

●社会参画活動の受け皿として、CSや地域学校協働活動が機能していくことが重要である。NPO法人みらいずworks 小見まいこ 提出資料

令和7.7.28